

■決算通信（2018年度第3四半期）

JTは10月31日に2018年度第3四半期決算を発表いたしました。
今回の決算におけるポイントは以下のとおりです。

全社業績(実績・見込)

JTグループの全社利益目標である為替一定ベースの調整後営業利益は、前年同期比9.2%増の5,307億円となりました。これは、海外たばこ事業と医薬事業の増益が、国内たばこ事業等の減益を上回ったことによるものです。

為替一定ベースの調整後営業利益の通期見込については、海外たばこ事業における追加的な単価上昇効果を織り込むことから、上方修正し、6.6%増を見込みます。

財務報告ベース（為替の影響を含んだ決算数値）の全社概要は以下のとおりです。

- ・ 売上収益は、ネガティブな為替影響があったものの、海外たばこ事業と医薬事業の増収により、5.2%増の1兆6,758億円となりました。
- ・ 調整後営業利益（特殊要因を除いた営業利益）は、ネガティブな為替影響があったものの、5.1%増の5,110億円となりました。
- ・ 営業利益と四半期利益は、それぞれ1.6%増の4,771億円と0.3%減の3,327億円となりました。
- ・ また、通期の業績見込では、ネガティブな為替影響を見込むことから、売上収益・調整後営業利益・営業利益・当期利益をそれぞれ下方修正します。

国内たばこ事業(実績・見込)

- ・ 紙巻販売数量は、10月に実施された定価改定前の駆け込み需要があったものの、Reduced-Risk Products（RRP*）市場拡大の影響を受けた紙巻総需要の縮小により、8.7%減の642億本となりました。一方、RRP販売数量は紙巻たばこに換算して18億本相当となりました。
- ・ 紙巻のシェア増加および、7月から全国のコンビニエンスストアでの取り扱いを開始したブルーム・テック販売数量の伸長に伴い、紙巻とRRPを合わせた、トータルでのJTシェアは回復基調にあります。
- ・ 自社たばこ製品売上収益は、紙巻販売数量の減少を、ブルーム・テックの販売伸長が相殺し、前年同期と同水準の4,444億円となりました。このうち、RRP関連売上収益は461億円となりました。
- ・ 調整後営業利益は、RRP関連の販売促進費の増加により、2.9%減の1,728億円となり

ました。

- ・ 通期見込では、調整後営業利益は変更せず、前年比 13.0%減の 2,020 億円としています。
- ・ RRP カテゴリー全体の成長鈍化も踏まえ、プルーム・テックの販売目標を、紙巻たばこに換算して 40 億本相当から、28 億本相当に下方修正しますが、紙巻販売数量の上方修正やコスト削減により、調整後営業利益の見込達成を目指します。
*RRP…喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品を Reduced-Risk Products (RRP) としております。

海外たばこ事業(実績・見込)

- ・ 総販売数量は、ロシア等における総需要の減少による影響があったものの、インドネシア・エチオピア・フィリピン・ロシアにおける買収効果等により 7.4%増の 3,201 億本となりました。グローバル・フラッグシップ・ブランド (GFB*) の販売数量は、1.9%増の 2,013 億本となりました。
- ・ 為替一定ベースの調整後営業利益 (ドルベース) は、事業投資を着実に進めつつも、単価上昇効果や総販売数量の伸長により、16.2%増となりました。
- ・ 通期見込では、追加的な単価上昇効果を織り込むことから、為替一定ベースの調整後営業利益 (ドルベース) は上方修正し、前年比 20.1%増を見込みます。
- ・ 一方で、為替の不利な影響が拡大しており、財務報告ベースの調整後営業利益は前回見込より下方修正いたします。
*GFB…JT グループのブランドポートフォリオを担う「ウinston」「キャメル」「メビウス」「LD」の 4 ブランドをグローバル・フラッグシップ・ブランド (GFB) としております。

医薬事業(実績・見込)

- ・ 売上収益は、導出品の販売拡大に伴うロイヤリティ収入増加により、10.1%増の 818 億円となりました。
- ・ 調整後営業利益は、研究開発費の増加があるものの、売上収益の増加により、21.8%増の 193 億円となりました。
- ・ 通期見込では、売上収益を上方修正するものの、経費の増加により調整後営業利益は変更せず、前年比 3.8%増の 250 億円を見込みます。

加工食品事業(実績・見込)

- ・ 売上収益は、パックご飯等のステープル (主食) 商品や調味料の販売伸長を、その他商品の販売減少が相殺し、前年同期と同水準の 1,172 億円となりました。
- ・ 調整後営業利益は、原材料費の高騰により、30.0%減の 21 億円となりました。

- ・ 通期見込では、売上収益の減少と原材料費の高騰等を織り込むことから、調整後営業利益を下方修正し、前年比 7.4%減の 50 億円といたします。

第 3 四半期は、事業環境が不安定・不透明な中でも堅調な全社業績を達成できましたが、これは、JT の事業基盤・利益基盤が強固なものであることの証左であり、また環境変化に柔軟・迅速に対応した結果であると考えております。

しかし、各事業の厳しい事業環境に変わりはありません。とりわけ国内たばこ事業においては、来年も RRP カテゴリーを中心にますます競争が激化することは想像に難くありません。持続的な利益成長のためには、紙巻での圧倒的 No.1 の強化とともに、RRP のさらなる成長が不可欠です。

まずは、今期の利益目標の達成を目指しますが、RRP への投資に加え、海外で買収したマーケットの強化など、中長期的な視点で必要な取り組みを引き続き行っていきます。

なお、一株当たり配当金については、当初予想から変更なく年間で 150 円を予定しており、期末配当金は 75 円をお支払いする予定です。

- ・ 決算に関する詳細情報は、下記をご覧ください。

決算説明会の音声配信

[投資家説明会資料](#) [へ](#) [>](#)

決算短信

[決算短信](#) [へ](#) [>](#)

- ・ 最新のリリースは、下記をご参照ください。

2018 年度プレスリリース

[2018 年度プレスリリース](#) [へ](#) [>](#)